



▲小柴久子さん

“光ヶ丘子どもフェスタ” チームメンバー【柏センター】
子どもたちが元気に遊べる場が必要！

地域づくり活動の中で最も多かった声が、「子ども・子育て支援が足りない」ということでした。そこで、子育て層のメンバーを中心に、子どもの遊び場づくりのための“光ヶ丘子どもフェスタチーム”が誕生。そのメンバーのひとり小柴さんは、光ヶ丘サロンで「座ってできる簡単ヨガ」の講師を7年以上務めています。コグニサイズ（認知症予防運動プログラム）を学んで取り入れるなど工夫して、笑い声の絶えない大人気の講座です。ママたちの想いがつまった年2回の子どもフェスタで、いつもグッドアイデアでチームをリードしてくれている小柴さんにお話を伺いました。

■きっかけのひとつは、子育て中の孤立感……

「子どもフェスタ」と名前はついていますが、私たちの思いは「地域の方たちがほっとできるような、心地良い居場所づくり」です。私自身2人の男の子を育てる中、社会から取り残されているような孤独を感じたことがありました。それが子連れで参加できるヨガサークルを立ち上げたきっかけのひとつです。高齢者向けヨガもやらせていただいている中で、90代の方が80代の方に、「あなた、まだ若いわよー、わっはっは〜」なんて会話が飛び交っているのを見ると、人とのつながりが元気を生み出す秘訣で、仲間の大切さを痛感します。

■フェスタについて思うこと……

おばあちゃんがお孫さんを連れて、パパがお子さんを連れて、施設入居者さんが介護職員さんと一緒に…とさまざまな方が子どもフェスタに参加してくれて、笑顔で楽しんでいる様子を見ると「コレだよ、コレ!!」と大変うれしく思います。フェスタを通じ、年齢や性別など全ての垣根を越えて交流でき、横のつながりが広がっていきます。コーディネーターTさんの皆さんへの接し方や雰囲気作りなど学ぶところがたくさんあり、一緒に活動しているメンバーも優しい方ばかりなので、抜けている私でも安心して活動させていただいています。ご近所同士が声をかけあうことで、心が晴れたり、もっと優しい社会になるといいなと思います。



▲親子でバンパーダンスに挑戦



▲メンバーは子育て中のママが中心

お知らせ

八街センター秋のイベント

- ◆11/3（金祝） 明日につながるマルシェ in 風の杜ひろば
- ◆11/18（土） 自然とあそぼう in 風の杜ひろば

【問い合わせ】043-440-0181（冨永）



▲座ってできる簡単ヨガ講座



各センターで人材大募集！
あなたの魅力を貸してください。

- ボ ボランティア
- 参 参加者
- 仕 仕事
- 場 場所利用

【八街センター】 Tel 043-440-0181

- ・買い物バス
- ・風の杜ひろば
- ・子育てサロン
- ・風のロッジ
- ボ 運転手
- ボ 草取り
- 参 運営スタッフ
- 場 活動グループ

【柏センター】 Tel 04-7170-0939

- ・ふれあい健康麻雀教室
- ・生活支援サービス
- 参 参加者
- 仕 ケア者

【千葉センター】 Tel 043-290-8017

- ・地域食堂
- ・こどもカフェ
- ・生活支援サービス
- ・あみいこ
- ボ 調理や運営スタッフ
- ボ 運営スタッフ
- 仕 ケア者
- ボ 麻雀イストラクター
- 参 講座参加

各センターにお問い合わせください



食を通じた居場所が増えています

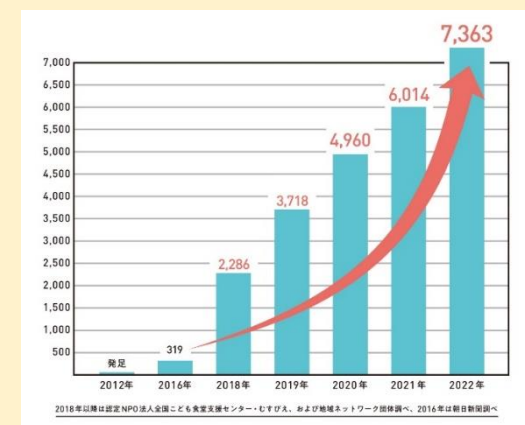
みなさんは「子ども食堂」に
どんなイメージを持っていますか？

「貧困家庭の子どもに食事を提供するところでしょ」とか「子どもだけが対象なんでしょ」と思っていますか？
たしかに初めは子どもが対象だったようですが、ここ数年でその対象も目的も広がり、その数は年々増えています。

子ども食堂とは

「こども食堂」とは、子どもが一人でも行ける、無料または低額の食堂です。「地域食堂」「みんな食堂」という名称のところもあります。こども食堂は民間発の自主的・自発的な取り組みです。しかし、それゆえ運営を支援する公的な制度などが整備されていないにもかかわらず、こども食堂の数は増加の一途をたどっており、現在その数は全国で約7000箇所にものぼっています。（2022年12月「むすびえ及び地域ネットワーク」調べ ※2016年は朝日新聞調べ）

引用元：認定NPO法人全国こども食堂支援センターむすびえ（musubie.org）



子どもの貧困や、コロナ禍での孤立などをニュースで知り、そのネーミングと分かりやすさから「自分にも何かできるんじゃないか！」という思いで立ち上げた人も多いのでしょう。独りでの食事を避ける孤食対策として、また多世代が交流する居場所としてもたいへん注目されています。

しかし継続的に食堂を開き続けるには、食材の確保、資金のやりくり、ボランティアなど担い手の確保が必要です。同じような課題を抱える団体を支援するために、「子ども食堂ネットワーク」も各地にできています。

街ねっとの八街、柏、千葉の各センターでは、生活クラブ千葉グループが行っている地域共生社会をめざした「安心システム」の取り組みの中で、地域の居場所となる食堂を開催しています。それぞれの食堂には地域に合わせた特徴があり、参加する人、運営するボランティアの思いもさまざまです。みんなで作った温かい食事を、みんなで食べると自然に笑顔になる、そんな場所です。

▶次ページからは、そんな取り組みの様子をご紹介します。



特定非営利活動法人（認定NPO法人）

コミュニティケア街ねっと

【発行責任者：飯島 晃子】

〒263-0051 千葉県稲毛区園生町 1107-7
【Tel】043-290-8015 【Fax】043-290-8016
【E-mail】info@ccmachinet.jp
【URL】https://www.ccmachinet.com
2023年10月発行



子どもからお年寄りまで
"だれでも" 歓迎!

多世代がつながる
居場所づくり

ちいき食堂

「居場所づくりがやりたい」
地域のメンバーで
運営されています

どの食堂も
手作りの"のぼり"
掲げています

風のロッジ だれでも食堂

風のロッジ in 八街市東吉田
【安心システム八街】

八街の季節の野菜や果物を使ったメニューを提供しています。家庭で活かせるように、その日のレシピと栄養ワンポイントアドバイスを渡しています。

■食堂ヒストリー

- 2017年 喫茶アルルカン食堂スタート。
- 2018年 会場を風のロッジに移して、**だれでも食堂**として開催。
- 2020年 コロナ禍で食堂は休止。7月から**フードパントリー**という形で活動。
- 2023年 6月から**だれでも食堂**再スタート!



■利用者はどんな人?

風の村保育園帰りの親子、地域に住む高齢者、大人、スタッフの知り合い。

■スタッフはどんな人?

地域に住むボランティア。(内1人は栄養士)

■支援者・団体

コープみらいからのお米、地域の農家からの野菜、近隣のスーパーからの食材、風の村やちまたデイサービス利用者からの食材などの寄付。2023年度ノーツすこやかこども財団助成金。



参加者の声

ここで夕ごはんを済ませているので、帰宅後は親子でゆっくり過ごせる日。普段は忙しくてなかなかできない話をしたり、遊びや入浴もゆったりできます。この日が息抜きになって楽しみです。

参加者の声

食堂の日が楽しみです。それは子どもが卒園した保育園のお友達に会えるから。食事後、外でおしゃべりしたり、遊んだりできて嬉しい! それに、ボランティアスタッフをしている保育園の先生と会えることも嬉しい! 子どもは月1回「レストランに行く日」だと思っています。

野菜たっぷりカレー
& かき氷!



■これから...

市内の多くの場所に子ども食堂ができてほしい。歩いて行ける場所にあれば子どもだけでも利用できる。「八街市協働のまちづくりPiT」と連携して、やりたい人どうしを繋いでいきたい。そして、食堂の経験を共有したり、食堂の場所提供の相談を受けていきたいと思っています。

■毎月第2金曜日 16:30~18:00 【要予約 043-440-0301 風の村】
■高校生まで無料・大人 300円

地域食堂 みんなのテーブル

いなげピレージ虹と風 in 千葉市稲毛区園生町
【安心システムいなげ】



孤食をなくし、地域で気軽に立ち寄って交流できる居場所づくりをしています。応募してくれた38人のボランティアが強い味方です!

■食堂ヒストリー

- 2017年 老若男女の集いの場として**みんなのテーブル**スタート。
- 2020年 コロナ禍で食堂は休止。対象を絞って2022年4月まで**フードパントリー**や**カフェ**形式で継続。
- 2023年 2022年秋にボランティアを募集し、1月から食堂再開。8月に**子ども食堂**を3日間開催。



■利用者はどんな人?

地域に住む赤ちゃんから高齢者まで。約8割は高齢者ですが、嬉しいことに徐々に子ども連れが増えています。

■スタッフはどんな人?

近隣在住で、コロナ明けたら何か地域活動がしたいと応募してくれたボランティア。(風の村の管理栄養士が調理監修)

■支援者・団体

地域の人からの食材寄付。虹の街のこども食堂基金、千葉市こども食堂ネットワーク祝い金。



スタッフの声

コロナ前に来ていた親子。友人を誘って、1歳前後の子どもたちと、ほっとひと息、食事を楽しんでいました。食堂再開で、すっかり大きくなった子どもたちの姿に、時の流れを感じながらも、「また会えたね」とボランティアのみんなで再会を喜んでいました。

スープ・デザートまで
豪華中華プレート



スタッフの声

「ここ以外、まだ怖くて外出できません」と近所の高齢者が来てくれています。家ではいつも一人。でも、ここでは賑やかな雰囲気の中で食事を楽しみ、隣の人との会話も楽しんでいます。こんな日常が地域食堂の一番ほっとするところです。

■これから...

2023年夏、こどもカフェの「夏休み教室」と「子ども食堂(昼食)」を同時開催したところ、たくさんの参加がありました。ボランティアの協力で、これからも定期的な開催ができればと考えています。

■毎月第2金曜日 17:00~18:30 【要予約 043-290-8017 北田】
■高校生まで無料・大人 500円

つなぐ・つながる くれよん

風の村光ヶ丘「よってって」 in 柏市東中新宿
【安心システム柏】



多世代の居場所づくりを通して、子どもたちの健やかな成長を支援します。毎回「あそぼ&ランチしよう」の企画はお楽しみ! 当日はフードパントリーで1世帯お米2kgと食材を差し上げています。

■食堂ヒストリー

- 2010年 風の村光ヶ丘の入居者対象にボランティアによる喫茶店をスタート。
- 2020年 コロナ禍で中止。季節の手芸品にメッセージを添えて贈る活動に。
- 2023年 4月から子ども中心に、多世代の居場所**くれよん**として活動スタート。



■利用者はどんな人?

1歳から小学生までの子どもたちと保護者が中心。柏市こども食堂連絡会のLINE登録情報から市内遠方からも参加者がいます。

■スタッフはどんな人?

生活支援のケア者、サロンの利用者、風の村利用者対象の喫茶でボランティアをしていた人たち。

■支援者・団体

柏市こども食堂連絡会、とうかつ草の根フードバンク、コープみらいなどからの食材寄付。社協やむすびえなどからの助成金。



スタッフの声

2歳男子と4歳女子の子育て中でイライラしていたママが、帰る時にはニコリ笑顔を取り戻して充電完了。自転車の前と後ろに子どもたちを乗せて帰っていく後ろ姿に「エールを送らずにはいられませんでした。」

栄養満点、目玉焼き付
ハンバーグプレート



スタッフの声

「あそぼ&ランチしよう」の企画は、毎回スタッフが知恵を絞って手づくりします。「あそぼ」は昔遊びやおはなし会の参加型の企画で楽しんでもらい、美味しいランチをいただきます。毎回「楽しかった!」「美味しかった!」の声が聞きたくてがんばっています。

■これから...

もっと地域で認知され、他の子ども食堂団体などつながり、行政や民間団体のご支援を受けながら、「だれもが安心して暮らせる地域づくり」として、気楽に行ける居場所を開催したい。そして、育ち盛りの子どもたちに笑顔を届ける活動を続けていきます。

■毎月第3土曜日 10:30~13:00 【予約不要 04-7170-0939 小口】
■子ども無料・大人 200円